

所属・氏名（ 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 氏名：金口 瑛典 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Bilateral muscle atrophy after anterior cruciate ligament reconstruction in rats: Protective effects of anti-inflammatory drug celecoxib《筆頭論文》	共著	2022年4月	The Knee 35 201-212	ラット膝前十字靭帯再建後には大腿直筋と半腱様筋に両側性の筋萎縮が生じた。また、大腿直筋の萎縮は抗炎症薬投与により軽減したことから、炎症の関与が示唆された。 (総ページ数:12頁) (Kaneguchi A , Umehara T, Yamaoka K, Ozawa J) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) Marrow adipose tissue accumulation and dysgenesis of the trabecular bone after anterior cruciate ligament transection and reconstruction in the rat proximal tibial epiphysis《筆頭論文》	共著	2022年3月	Acta Histochemica 124(4) 151891	ラット膝前十字靭帯切断後に脛骨近位部の海綿骨が減少し、骨髄脂肪組織が増加した。靭帯再建術は、海綿骨の減少を軽減するが、骨髄脂肪組織の増加は抑制できなかった。 (総ページ数:7頁) (Kaneguchi A , Ozawa J, Umehara T, Yamaoka K) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (学術論文) Effects of Each Phase of Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Surgery on Joint Contracture in Rats《筆頭論文》	共著	2022年5月	Journal of Investigative Surgery 35(5) 984-995	ラット膝前十字靭帯再建後の関節拘縮形成において、関節切開が筋性の拘縮を誘導し、骨孔作製が筋性の拘縮を重症化させ、関節性拘縮を誘導することを明らかにした。 (総ページ数:12頁) (Kaneguchi A , Ozawa J, Minamimoto K, Yamaoka K) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (学術論文) The Natural History of Medial Meniscal Tears in the ACL Deficient and ACL Reconstructed Rat Knee《筆頭論文》	共著	2021年12月	Cartilage 13(2_suppl) 1570S-1582S	ラット膝前十字靭帯切断後、半月板では増殖と骨化が生じ、それに続いて断裂が生じた。靭帯再建術は、半月板の増殖と骨化を抑制し、結果的に断裂を予防した。 (総ページ数:13頁) (Kaneguchi A , Ozawa J, Minamimoto K, Yamaoka K) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (学術論文) Formation process of joint contracture after anterior cruciate ligament reconstruction in rats《筆頭論文》	共著	2021年5月	Journal of Orthopaedic Research 39(5) 1082-1092	ラット膝前十字靭帯再建後、7日までに関節包では炎症と線維化反応が生じ、それに伴って関節拘縮が生じた。その後、関節拘縮は部分的に改善したが、56日後にも完全には回復しなかった。 (総ページ数:11頁) (Kaneguchi A , Ozawa J, Minamimoto K, Yamaoka K) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能

令和 4年 5月 16日 現在